

楽しくレベルアップするために

Message from Continuing Professional Development Team

持田侑宏

1. はじめに

私たちの携わっている電子情報通信分野では技術進歩が大変速く、活動が国際的であり、会員が社会で果たす役割がとても大きいことは、皆さんが既に実感していることと思います。

皆さんは学生時代を終えてこれから様々な仕事に従事していきませんが、この激しい進歩の中で、視野を広げ専門分野を深めていくために、生涯にわたって研さんし能力開発を続けることが大切になります。このことはもちろん努力を必要としますが、やりがいのある生き方にも結び付くのではないのでしょうか。正にこのような生き方をコミットしているところに、本会会員の社会における価値があるといえるのです。

2. 電子情報通信学会は会員をCPDでサポートします

この「継続自己開発」や「生涯学習」を、本会は新しい会員サービスとしてサポートしていこうと準備を進めています。元々本会は、先端オープン講座や教科書シリーズなどの優れた素材を提供してきました。これからはこれに加えて一貫したシステムとして、学習プログラムの認定・検索・閲覧、プログラムの実施、会員の研さん履歴ポイントの管理、そして研さんの成果としての能力の保証などを提供していこうというものです。これがCPD (Continuing Professional Development) 活動で、今年後半のトライアルから助走を開始し、近い将来にサービスを開始できるよう力を入れ始めています。

3. 会員の意識と期待

電子情報通信分野の実務や、開発・研究に従事している会員がどのようにCPDを考えているかについて、2003年11月にアンケートによる意識調査を行いました。その結果、以下のような興味深い結果が得られました。(詳しくは本会誌2004年12月号を御覧ください。)

- ・ ほとんど(99%)の人は「技術者の継続教育は必要」と思っているのに、同時に大半(58%)は「時間がなく十分には実施できていない」と感じていて、効率の良いCPDに対するニーズがかなりあること。
- ・ 所属企業・機関による教育システムでは不十分と感じていて、学会への期待が大きいこと。
- ・ 経済的で質の高い継続教育を求めていること。
- ・ 本会の先端オープン講座への関心は高いが「参加した人」はまだ少ないこと。
- ・ 比率は小さいが、能力を客観的に測る指標が整備されている環境の中では、継続教育による能力向上が処遇や報酬などに反映され始めていること。
- ・ 「今後、グローバルに技術者の流動性が高まる」と考えていること。
- ・ 会員には何らかの資格を持つ人が多く、更に「海外と相互承認できる資格」や「専門性を高めた資格」に対する期待が高いこと。

4. On the Job Training だけでは限界?

上に述べた意識調査にも現れていますが、技術の進歩が激しくグローバルに展開している今、職場でのOn the job training だけでは限界があるといわれています。上司の背中だけを見て会社生活を続けていると、数年後には方向を見失ってしまうとの恐れも、会社の中で指摘されています。企業の中にはいろいろな教育プログラムを用意しているところも多くなりましたが、すべての教育内容をカバーしきれなくなっています。

持田侑宏 正員：フェロー (株)富士通研究所
E-mail mochida@fujitsu.com
Yukou MOCHIDA, Fellow (Fujitsu Laboratories Ltd., Kawasaki-shi, 211-8588 Japan).
電子情報通信学会誌 Vol.89 No.7 pp.624-626 2006年7月

そこで忙しい技術者にとって効果的な能力開発システムを、学会と産業界・大学が連携して作っていく動きがCPDとして世界的に始まっているのです。これは、本小特集の3-2で述べられたJABEEが支援する大学教育の後、職業に従事している技術者をサポートするもので、JABEEとCPDは車の両輪のようであると考えられます。

5. 社会からCPDへの期待

最近、高度なプロジェクトの契約交渉時に、従事する技術者の技術力を、資格やCPD履歴などで証明することが求められ始めています。一部の政府や自治体プロジェクトで建設分野を中心に始まっていますし、今後は国際調達でも増えることが予想されます。また、企業内においても、大規模プロジェクトのマネジメントに、資格を持った技術者を充てる動きが芽生えています。そのために今後国際的にも通用する能力評価やそのための継続学習の仕組みが望まれています。

海外でもIEEEやIEE等でCPDが進められていて、資格制度とも関連付けられています。

6. CPD部会と電気電子・情報系CPD協議会

本会では2002年にCPD部会を設置して、日本工学会のPDE(Professional Development of Engineers)協議会のもとで活動を開始しましたが、上記のアンケートの結果を受けて検討を加速し、2005年度からは電気学会、情報処理学会とともに「電気電子・情報系CPD協議会」を作って、密接に連携してCPDの仕組みを議論してきました。

2006年度後半には、新しい会員サービスとして早期に実現するため、CPDトライアルを実施することにな

りました。若手メンバーを中心とした方々に、CPD会員としてCPDプログラムを実践し、受講・実践履歴を記録し、CPDアクティビティポイントを登録して頂きます。皆様の積極的な参加をお待ちします。

7. キャリヤパスの段階に応じたCPDの重点

CPDのスコープとしては、会員が就職してからベテラン技術者になるまでの数十年に及ぶ歩みをとらえようとしています。若手の時代は最新の知識の習得が中心ですが、中堅になるとこれに加えて実務での活動の比重が増し、そしてベテランの段階では社会や学会のための貢献が求められるのではないのでしょうか。この重点の推移を、CPD部会メンバーの評価で表したものを図1に示します。ここでは技術者のレベルを4段階(暫定名称として2級技術者、1級技術者、上級技術者、特別上級技術者)としています。

8. 企業とCPD——名刺に学会名を書こう——

技術進歩が一層速くなり、また技術者倫理が求められている現在、学会員である技術者は技術者倫理や生涯研さんをコミットした従業員であり、企業は大切にすべきです。そこで、本会では、電気学会、情報処理学会とともに、連携キャンペーン「名刺に学会名を書こう」を2005年から呼びかけています。詳細は本会ホームページを御覧下さい。

これは、私たち会員の名刺に、例えば「電子情報通信学会 正員」という文字を入れようとの活動です。会員にとっては、自分が技術者としてしっかりしたよりどころを持つことを示せますし、所属機関にとっても、技術者倫理を守り、日常の研さんを重ねている立派な技術者が自社にいることをお客様や社外にPRできます。また私たちの学会にとっても、会員の連帯感を一層高め、近

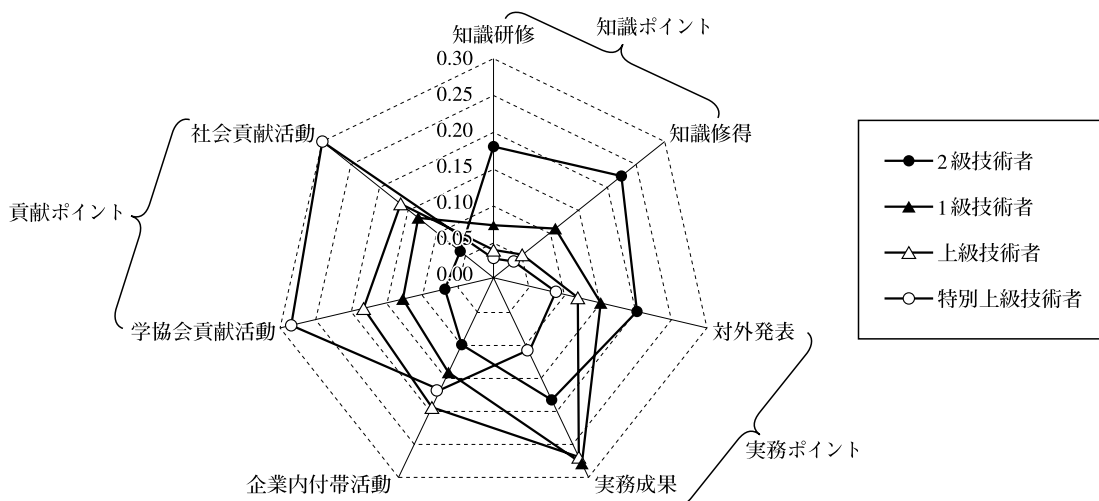


図1 技術者のキャリアパスで期待される項目

い将来の技術者資格制度導入時にも、ここに資格名称を書くなどスムーズに移行できるメリットがあります。

既に海外の技術者の間では、所属学会の名前を名刺に書くことが、例えば英国を中心とした MIEE (Member of IEE) のように行われています。

9. おわりに

このように、日本の技術力を高め、世界から尊敬される技術者を育てるために、産業界や大学も巻き込んで CPD を立ち上げようとしています。会員の皆さんが本

会の会員であって良かったと思えるような会員サービスに育てていきます。積極的に参加され、学会にも貢献されるようお願いしています。

(平成 18 年 3 月 6 日受付)



もちだ ゆうこう
持田 侑宏 (正員：フェロー)

昭 39 東大・工・電気卒。同年富士通(株)入社。以来、富士通研究所においてデジタル伝送、光通信、デジタル信号処理などの研究開発に従事。工博。(株)富士通研究所顧問。北京郵電大及び早大客員教授。本会 CPD 部長。IEEE フェロー。